

直売所の利用者が 500万人を突破

(株)内子フレッシュパークからり

(株)内子フレッシュシユパークからり(富永昌枝社長)の直売所利用者が8月20日、500万人を突破し、記念のセレモニーが行われました。500万人目となったのは大阪市から来ていた小池善行さん。奥さんの陽子さんの実家がある松山市へ親類らと帰省した際に「新鮮で良いものが買える」との評判を聞き、からりへ立ち寄ったとのこと。富永社長から新米1俵や記念品が贈られ、思いがけない幸運を

喜んでいました。からりは平成9年4月1日にオープン。直売所では町内の農家が育てた野菜や果物、加工品などを販売しています。昨年は、1年間で約74万人が利用し、売り上げは会社全体で7億2千300万円。富永社長は「地元食材の加工にさらに力を入れ、加工・流通・販売などを総合的に扱う第六次産業化を進めたい」と今後の抱負を語っていました。



500万人目となった小池善行さん(中央)と陽子さん

アルミ缶を回収し 車いすを寄贈

(株)ジョー・コーポレーション

(株)ジョー・コーポレーション(中岡大起社長)は9月1日、デイサービスセンター「たんぽぽ」(運営:内子町社会福祉協議会、小川浩司会長)に車いす1台を寄贈しました。同社の内子支店では、19年2月から、環境活動の一環としてアルミ缶やプラタ

プの回収に取り組み、集めたアルミ資源を車いすと交換して町内の福祉施設に寄贈しています。今回の寄贈は、神南荘・みどり苑・緑風荘に次いで4台目。受け取った施設の利用者は、「みんなで大切に使いたい」と喜んでいました。



宮岡隆志・同社内子支店長(左)と、小川社協会長

特産品を配って 交通安全を呼び掛け

観光農園部が交通茶屋

内子町観光協会観光農園部(上田敏広部長)と内子町交通安全協会(稲本隆壽会長)は8月20日、大洲警察署内子交番前で交通茶屋を行いました。毎月20日は、交通事故ゼロを目指す日です。同農園部では、8月20日が観光ブドウ園の開園日であること

から、同日に交通茶屋を実施。自動車の運転手に交通安全を呼びかけるチラシを配るとともに、観光農園で収穫されたブドウや、「交通事故故無し」にちなんでナシを手渡し、特産品の宣伝を行いました。



笑顔でチラシやブドウなどを受け取るドライバー

災害時の応急業務や 物資供給などで協力

J A えひめ中央と協定

えひめ中央農業協同組合(三好功理事長)は9月5日、内子町など同組合管内の6市町と、大規模災害に備えて応急業務に関する協定を結びました。調印式は同日、松山市総合コミュニケーションセンターで行われ、内子町からは稲田繁副町長

が出席しました。協定では、大地震などの大規模な災害が起きた場合に、町からの要請に応じて、避難所への食料品や日用品、ガソリンなどの供給が行われることになっています。



調印後。右から2番目が稲田副町長

保護者で、地域で 内子町の教育を考えよう

学校統合についての説明会

学校統合についての「地域説明会・意見交換会」が9月7～11日にかけて町内3ヶ所で開かれました。教育委員会から、将来の学校別児童生徒数の推移や耐震化、教育改革懇談会などについて説明。また小規模校や統合のメリット・デメリット、統合を進める基準などが示されました。

意見交換会では、地域と学校との連携、通学、耐震化、定住問題など、統合に反対する意見も含め多くの意見が出されていました。教育委員会では「最も良い結論を出すために、この説明会をきっかけに保護者や地域で十分話し合い、地域の方向性を考えてほしい」としています。

内子手しごとの会 「彩あんどん」が準大賞 21世紀えひめの伝統工芸大賞



④受賞作品。同様の作品は現在、町並み保存センターなどに展示 ⑤制作に携わった皆さん

伝統的特産品などの次代を担う技術者が作った市場価値の高い商品を掘り起こす「21世紀えひめの伝統工芸大賞」の表彰式が9月7日、県庁で行われ、内子手しごとの会(見玉政輝会長)が製作した「今は昔、内子彩あんどん」が準大賞を受賞しました。同会には、さまざまな手工芸の技能を持つ16人が加入。互いの技術向上と、連携による新たな商品開発を目指して19年度から活動を進めています。受賞作品は木工・草木



染め・鍛冶などの技術を持つ4会員が中心となって製作。見玉会長は「受賞は、より多くの人に興味を持ってもらう良いきっかけになった。今後はアンテナショップを開き、内子町にしかない作品を発表していきたい」と話していました。